

ご自由にお持ち下さい

FREE

都心から90分。
四季で様々な表情をもつ山梨県甲州市。
ここ甲州市の魅力、暮らしのススメをご紹介します。

都心からすぐの田舎暮らし

甲州
らいいふ

甲州市の暮らしには何がある？

先輩甲州びとに

聞いてみました。

都心から90分。
四季で様々な表情をもつ
魅力ある山梨県甲州市へ…

都心からすぐの田舎暮らし 甲州らいいふ 編集チーム:山梨県立大学 / 発行元:山梨県甲州市役所 政策秘書課 / 制作:アコム株式会社

【お問合せ】 山梨県甲州市役所 政策秘書課 TEL 0553-32-2111(代)

ご自由にお持ち下さい FREE

甲州市暮らしガイド

空き家バンク
Q&Aで知る移住

都心からすぐの田舎暮らし

甲州 らいふ

創刊号

発行日: 平成27年3月23日

- 02—
もくじ
- 03—
編集紹介
- 04—
概要・施設・インフラ紹介
甲州市って？
- 05—
春・夏・秋・冬
甲州市の四季
- 06-17—
先輩甲州びとに
聞いてみました
- 18-21—
自然・果実・歴史文化・暮らし
甲州市を楽しむ
- 22-23—
これで解決！
甲州市のQ&A
- 24—
子育て・住む・働く
甲州市の支援制度
- 25—
まずはチェック
空き家バンク
- 26—
アクセス
- 27—
発行にあたり

雄大な自然と歴史文化 優しい果実の香りに包まれた甲州市

山梨県甲州市は、日本百名山で知られる大菩薩嶺をはじめとする秩父山系の自然景観に恵まれ、盆地特有の内陸性気候を利用したブドウやモモ、ころ柿などの果樹栽培が盛んな日本でも有数の産地であります。

また、戦国の雄・武田信玄公の菩提寺で知られる恵林寺、ブドウ発祥伝説の国宝大善寺、江戸時代に甘草を栽培していたことから、甘草屋敷として親しまれている旧高野家住宅など、歴史と文化に彩られた重要文化財が数多く存在しています。

地理的にも東京から100km圏内に位置し、中央自動車道をはじめ、国道20号（甲州街道）や国道411号（青梅街道）、国道140号（雁坂みち）、JR中央本線においては、甲斐大和駅、勝沼ぶどう郷駅、塩山駅と3つの駅がある立地条件により、観光産業の振興や地域活性化はもとより、全国各地の皆様との交流、連携が年間を通じて行われています。

取材
編集



山梨県立大学プロジェクトチーム『甲州らいふ♪つたえ隊』

公立大学法人 山梨県立大学
<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/>

「甲州市ってどこ？行ったことない。」「甲州市ってぶどう？ワイン？」
こんな言葉からスタートした無料情報誌の制作。

県立大学に在学している私たちは、インターネットやパンフレットなど、さまざまな媒体を使って、また直接訪問して甲州市のことを調べました。まず、豊かな自然や、国宝！ワイン発祥の地！などの歴史文化に驚かされました。

そして、なんとといっても、甲州市に移り住んだ人の笑顔！直接お話をお伺いすると、皆さん甲州市が大好きで、甲州市に馴染み親しんでいて、その魅力を笑顔で、真剣に語ってくれました。「甲州市に住んで良かった。」

その言葉を聞くうちに、気が付いたら私たちも甲州市を大好きになっていました。この無料情報誌には、私たちが見つけた甲州市の魅力や、甲州市に移り住んだ皆さんの言葉を多くの人に伝えたいという思いが詰まっています。自然や歴史文化、人々の笑顔などがあふれる甲州市の魅力が伝わったら嬉しいです。まずは一度、甲州市に遊びに来てみませんか？



編集チーム

山梨県立大学	3年 岡野 佳歩	3年 小島 惟	3年 鶴田 修平
	3年 樋川 真結	2年 雨宮 育世	2年 大塚 賢人
	1年 大塚 郁弥	1年 金子 萌	1年 望月 勝太

発行元

甲州市役所 政策秘書課

制作

アドコム株式会社
(天野・上矢)

Summary 概要

甲州市の概要

- 人口 33,651人(平成27年3月1日現在)
- 面積 264.01平方キロメートル
- 年間平均気温 14.3度(勝沼地点/平成23年記録/気象庁発表)
- 教育環境 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・短期大学校
- 鉄道 JR中央本線:甲斐大和駅/勝沼ぶどう郷駅/塩山駅
- 自動車 中央自動車道:勝沼IC
- バス 新宿から甲州市への高速バスが運行



甲州市にある主な公共施設など

公立保育所	4ヶ所	県立高校	1校
私立保育園	8ヶ所	県立短期大学校	1校
幼稚園	1ヶ所	病院・診療所等	32ヶ所
児童クラブ	13ヶ所	図書館	4ヶ所
市立小学校	13校		
市立中学校	5校		

Facility 施設

Infrastructure

インフラ

甲州市のインフラ

◎鉄道

市内には、甲斐大和駅、勝沼ぶどう郷駅、塩山駅と3つのJR中央本線の駅があります。
新宿から特急で90分の距離にある塩山駅には上下線合計で約30本の特急が停車し、行楽シーズンには勝沼ぶどう郷駅にも特急が停車します。年間では約100万人の方が駅を利用されるほど市民はもとより、観光客にとっても重要な交通機関です。

◎中央自動車道・国道など

甲州市内には、南部を通過する国道20号、中央部を縦断する国道411号、北西部を通過する国道140号など基幹道路があり、首都圏を結ぶ中央自動車道(勝沼IC)があります。
また、勝沼ICと各基幹道路を結ぶ「フルーツライン」は、眺望にも恵まれていることから観光客など多くの方が利用されています。



春

関東三大奇祭 大善寺 藤切り祭り(5月8日)

約1300年前の行者の大蛇退治に由来します。
5メートルの高さから切り落とされた藤つるをめぐり激しい争奪が行われます。

- 4月12日 恵林寺信玄忌「しんげんさん」
- 4月 中旬 大菩薩山開き「介山祭」
- 4月18日 向嶽寺秋葉神社大祭「あきやさん」
- 4月29日 放光寺大黒天祭り
- 4月第4日曜日 甲州市ふるさと武田勝頼公まつり
- 5月 8日 大善寺 藤切り祭り(関東三大奇祭)
- 5月 中旬 大菩薩トレッキング「新緑編」

菅田天神社 みそぎ祭り(6月30日)

茅の輪をくぐって心身を浄める祭りです。
氏子たちは形代を持って神社に参詣し、納めた形代は塩川へ流されます。
※形代(かたしろ)→紙を人形に切ったもの。

6月30日 菅田天神社 みそぎ祭り



秋

甲州市 かつめまぶどうまつり(10月第1土曜日)

喜びにわく収穫の秋、1年のぶどうの豊作に感謝した祭りが行われます。

- 9月中旬の名月 塩山温泉祭り
- 10月第1土曜日 甲州市 かつめまぶどうまつり
- 10月 上旬 大菩薩トレッキング「紅葉編」
- 10月15日 熊野神社 御幸行列
- 10月第3日曜日 甲州市フルーツマラソン大会
- 10月第4日曜日 甲州市 およっちょい祭り
- 11月第1土曜日 勝沼新酒ワインまつり
- 11月 上旬 武田陣中ほうとう祭り



ひな飾りと桃の花まつり(2月11日~4月18日)

厳しい冬が終わるころから春の花が咲き誇る季節にかけて甘草屋敷を彩るひな飾り。
江戸・明治・大正・昭和時代のひな人形や、つるし雛がところ狭しと並ぶ様子は圧巻です。

- 1月14日 藤木道祖神太鼓乗り
- 1月 中旬 田野十三神楽(県指定無形文化財)
- 1月 中旬 一之瀬高橋「春駒」(県指定無形文化財)
- 2月11日~4月18日 ひな飾りと桃の花まつり





震災を経て、
新たな生活へ。

甲州市の暮らしには何がある？
先輩甲州びとに
聞いてみました。

三浦 誠さん 香穂子さん
農家 みうらやファーム代表

甲州市塩山在住
移居前地域 岩手県

水産業の会社に勤めていた三浦さん。東日本大震災をきっかけに、山梨県甲州市塩山に移住されました。以前から農業に興味があったそうで、震災をきっかけに新たな人生をスタートされました。物価の安さや都心への近さなどを考慮し最終的に研修先のぶどう農家があったこの地に移住することを決心されたそうです。
考えるのは、やはり子供のこと
三浦さんが移住する際、一番心配したのはやはりお子さんのことでした。お子さんにとって重要な学校のことや医療関係など、移住前にはインターネットで限定的な情報しか知ることができなかったからです。しかし、現地で直接連絡すると、市役所の対応が素晴らしく、詳しい情報を手に入れることができ、とても助

かったとのこと。「子供に対する受け入れ態勢もしっかりしている。しかし現地でないと情報を手に入れるのが難しかった。」とのこと。自ら進んで情報を集める行動力が大切だとおっしゃっていました。

農業のリアルを伝えたい

三浦さんは今後、農業体験を行える民泊型の施設を開業したいそうです。世間一般が思い描いているような華々しい仕事ではなく、地味で大変なリアルな農業体験をしてもらうことで本当の農業というものを知ってもらいたいとのこと。一回きりの参加ではなく、繰り返し参加してもらうことで、自分の力で農作物を作り出す農業の楽しさを知ってもらいたいとおっしゃっていました。また、閉鎖的なイメージの農業を新たな移住者などが始めやすいようなオープンなイメージにするため、収穫量や売り上げなどをわかりやすい数字のデータとして公開していきたいそうです。



あたたかい
おせっかいに囲まれて。

ぴっかり高木さん お笑い芸人（吉本興業）

甲州市塩山在住
移居前地域 東京都（大阪府出身）

ぴっかり高木さんは、吉本興業の「あなたの街に住みますプロジェクト」という企画で甲州市に住むことになったお笑い芸人です。出身の大阪府でお笑いをはじめ、さらなる進化を求め東京へ上京。甲州市に住み始めたのは約一年前のことだといいます。

優しくたくましい、ご近所の方々

東京から甲州市に来る際には、貯金もなく知り合いもない環境に不安しかなかったというぴっかり高木さん。加えて、野生のシカやたぬきなどの動物が出ることや夜道のあまりの暗さなどは都会育ちの身には辛かったといいます。「近所の方が食べ物から住まいから何かと気にかけてくれ、とても頼りになりました。地域の皆さんが集まり、自分が住むことになった空き家の

掃除と草刈をしてくれたこともありました」。ぴっかりさんのする話は甲州市の話というよりご近所の方々に優しくされた話ばかりで、彼がどんなに愛されているかがうかがえるようでした。

住めば都。迷う前に住め！

「田舎暮らしに不安はあったものの、そこで悩んだりためらったりしてしまったら甲州市のいいところを知る前に移住することから逃げてしまったかもしれない。住めば都で、まずは住んでみることをおすすめします。」と自身の経験を含めながら話してくれたぴっかりさん。あとはここでお嫁さんが見つければ・・・(笑)とこぼす場面も。そんな彼の姿はすっかり甲州市民になりきっていると、私の目に映りました。

今も数々のまちおこし団体に参加したり甲州市のイベント案を考えたりしているというぴっかりさん。お笑い芸人としても甲州市民としても、今後のますますのご活躍に期待がかかります。



子育てをきっかけに
始めた新しい暮らし。

かがみもち 鏡味仙三さん・仙花さん（夫婦太神楽）

甲州市塩山在住
移居前地域 東京都

江戸時代から続く伝統芸能「太神楽」を夫婦で興行する、鏡味仙三（若尾幸一）さん、仙花（由紀子）さん。「内向的な自身の性格を変えたい。」と太神楽師を志した仙三さん。研修に励む仙三さんを新聞記事で知り、影響を受けた仙花さんも太神楽師を目指したそうです。兄妹弟子となったお二人はその後結婚し、2010年に夫婦太神楽かがみもちを結成しました。

人、自然、交通、食べ物、たくさんの魅力溢れる甲州市！
「僕の出身が山梨県であり、将来は両親の年齢などを配慮して山梨に住もうと考えていました。」と仙三さん。以前は東京に住んでいたご家族ですが、息子さんの育つ環境にも重点を置いて、移住を早めたそうです。「自分が子供のころ自然の中で遊んだように、子供にも過

ごしてほしい。」とお父さんの表情の仙三さん。また甲州市は、お二人が今まで活動の拠点としていた東京から近く、交通の便が良いことが移住の決め手のひとつになったそうです。「東京にいた頃と比べ、心にゆとりがもてるようになった。果物や野菜をはじめとするご当地品の交換など、近所づきあいの良さを実感！食べ物新鮮でおいしい。」とおっしゃっていました。

移住者同士で助け合っていきたい

仙三さんは、道祖神祭りなど県内の伝統文化への関心も高く、「政治、経済、文化が東京に一極集中しすぎている。県内の文化を県外へと発信する強いパイプをつくりたい。」と熱い思いも語ってくれました。また、「移住することはそれなりに覚悟がいります。知らない土地での生活は分からないことばかり。今後、移住者同士で助け合っていきたいです。」とあたたかい人柄が伝わってくるお言葉をいただきました。



甲州市民の
「当たり前」が、
都会人にとって
「新鮮なこと」

古川周賢さん

恵林寺 住職（甲州市塩山）

甲州市塩山在住

移居前地域 京都府（岐阜県出身）

人に作れない「自然」が田舎にはある

東京や京都での生活も経験している古川さんは、大都会と甲州市での生活との両方を知っています。「都会にある建物や文化には人工物が多い。しかし甲州市には人間には作れない『自然』がある。」と古川さんは言います。東京が近いのにもかかわらず自然が豊かである甲州市。それこそが最大の魅力のひとつといえるでしょう。

ぶどう畑が広がる道を歩く、山に登る、ということだけでも都会の人にとっては魅力的なことであると古川さんは言います。

実際、市内には他にも溪谷や滝があり、また甲州市では四季の変化によって姿を変える山々をいつでも見ることができます。甲州市にはそのような「自然」がいつも近

くにあります。古川さんはそんな魅力を多くの人に知ってもらい、甲州市に来て、甲州市を堪能してほしいと笑顔で話してくれました。

コミュニティーの強さも甲州市の魅力

甲州市ではよく近所の人々が収穫したばかりの野菜や果物をおすそ分けしてくれます。こうして近所間のコミュニティーは育まれます。

古川さんが甲州市に移住してきて約3年経ちました。甲州市に移住後は近所づきあいが増え、これまでの人生でできた友達よりも甲州市に来てからできた友達のほうが多いと言います。甲州市には人と人とのつながりがしっかりあります。私たち甲州市民にとっては「当たり前」であることが、都会の人にとっては「新鮮なこと」なのであると古川さんは言います。

みなさんも一度、甲州市で新鮮な体験をしてみませんか？

※ Facebook

【古川周賢】or【恵林寺】で検索



「コーヒーの飲める公民館」
を目指して。

榊原雅樹さん

マスター（NPO法人「コロボックル」理事長）

甲州市塩山在住

移居前地域 甲府市

カフェ「コロボックル」のマスターである榊原さん。お店はなんと榊原さんの手作りだそうで、とてもあったかいアットホームな雰囲気に包まれています♪ちなみに「コロボックル」にはアイヌ語で露の下の小人という意味と、土壌改良時の最初の小さい粒の意味があるらしいです。以前からカフェ経営に興味があったそうで大学を卒業して、離れていた地元に戻ったのをきっかけにカフェ経営を始めたそうです。「コロボックル」がコーヒーを飲みくつろぎながら、町をよくするための相談ができる公民館のような場を榊原さんは目指しているそうです。

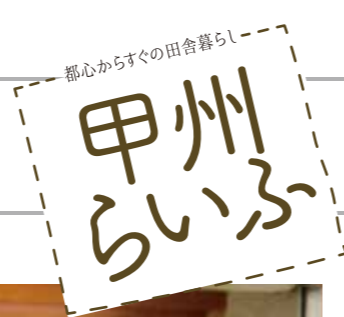
「ゴゴイチ」の存在

「コロボックル」が主催していたフリーマーケットのよ

うな午後オープン市場、それが「ゴゴイチ」です。最大で50店舗が出店するほど盛り上がっていて、移住した方が、周りの方々と溶け込むのにも最適な場となっていました。現在は残念ながら休場となっていますが、そこで生まれたつながりは絶えず今でも交流が続いているそうです。

「くっつけカフェ」へ

榊原さんは『「コロボックル」が、そこを中心に市民の人が集い、初対面の人同士が新たな人間関係を作る手助けをできるようなカフェ、いうなれば『くっつけカフェ』のような場になればいい。』とおっしゃっています。移住者が受け身ではなく、自ら「コロボックル」に足を運び、楽しみながら自分から情報を収集する場を提供したいそうです。甲州市は人と人との関わりが濃いので、人との交流が好きな人、移住した町の文化に溶け込み、人との繋がりを楽しめる人に、甲州市にぜひ移住をしてもらいたいとのことでした。



農業をはじめるとにあたり
必要なこと

三森齊さん・かおりさん夫妻 有限会社ぶどうばたけ経営

甲州市勝沼町在住

コミュニティに溶け込むこと

近年、山梨県に移住し農業をしたい県外の方が多くいますが、実際に移住先では何に留意すべきでしょうか。かおりさんは移住先のコミュニティに溶け込むことが必要と語っていました。農家たちは独自のコミュニティを形成しがちで、他人の受け入れに消極的な人が多いそう。コミュニティになじめないと、農作業中に子供を近所の方に見てもらえず苦勞することもあるそうです。自ら農家に足を運び、お手伝いや体験、農家民泊を通しそのコミュニティに徐々に溶け込むのも一つの手ではないかとかおりさんは語っていました。

農業の理想と現実のギャップを埋めること

他にも留意する点があるようで、齊さんは農業は人から

聞いた情報だけではわからない点も多く、事前に農業を体験することが重要と話していました。行政と農家の持つ情報には少なからず差が存在します。農業を始める時、繰り返しですが実際にその地で農業体験をしてみたいかがでしょうか。そこで理想と現実の差を埋めてみましょう。齊さんは何より農業をやりたいという強い気持ちがないと農業を続けていくのは大変とも語っていました。

農業の素晴らしさ

農業は大変な点も多いですが、良いことも沢山あるようです。かおりさんによると自分の作った農作物をお客さんが評価してくれること、食べて笑顔になってくれることが何より素晴らしいと教えてくれました。

農業は多かれ少なかれ理想と現実には差がありますが、埋めるには地域の方から信頼を得ること、農業を始める前に実際に農業を体験すること、農業をしたいという熱い気持ちが農業を始める際に鍵を握るようです。

※ぶどうばたけ オンラインショップ
<http://www.budoubatake.co.jp/>



自分の道を決め、動き、進む
それが出来た場所。

狩野高嘉さん 醸造管理者（丸藤葡萄酒工業株式会社）

甲州市勝沼町在住

移居前地域 千葉県（宮城県出身）

甲州市勝沼町にある丸藤葡萄酒工業株式会社。その醸造責任者をしているのが狩野高嘉さんです。「ワインの仕事をしたい」と思ったきっかけは学生時代の地元有名フレンチレストランでのアルバイト。仕事後に集まってワインの勉強会をしたり、なんとフランスへ研修旅行に行ったりしたそうです。しかし、「一度ちゃんと企業に就職して。」という両親の意見を考慮して、東京の有名企業に就職。電子工学系の仕事をしていました。

「ワインが新たに発展するスタートの場所に立ち会える」 が移住のきっかけ

会社に通いながらワインスクールに通う日々の中、勝沼町の丸藤葡萄酒工業が新たに人を探していることを知ります。当時は食卓にワインが並ぶような時代ではなかったのです

が今後市場に可能性があると思ったことと、丸藤の社長さんが醸造用ぶどうの栽培方法を日本で当時主流だった棚栽培を変え、ヨーロッパを参考に垣根栽培を新しくスタートさせようとしたこと。この二つが新たなスタートを踏み出そうとする狩野さんを「この場にいないといけない」と強く思わせ、転職に繋がったそうです。

多少の不安があっても行動することが大事

狩野さんはお話をする中で、「多少の不安があっても行動すること」の大事さを説いていました。その中でも、新しい環境に入った最初の時期には特に頑張って人間関係を作ることの重要性について話していたのが胸に響きました。「大都市とは違い、地方は一人ひとりの影響が大きい分、行動することで、人と人の繋がりの大切さや、ありがたさが見えてくる。その中で何か自分に出来る事が見つければいいかな。」と微笑みながら話してくれた狩野さん。ぜひ一度、そんな狩野さんのワインを味わいに甲州市に来てみてください。(http://www.rubaiyat.jp)



農業をはじめると
必要なこと

大村敏幸さん 農業

甲州市勝沼町在住

勤めていた会社を退職し、実家のある甲州市に戻ってきた大村さん。長男として、両親が元気なうちに実家のブドウ農業について学ぼうと移住を決めました。

土地も人も整った環境で農業を

農業をはじめたばかりのころは何かと周囲の人々に助けられたという大村さん。甲州市で農業を始めるにあたっては「農業をしている人は情が厚く、コミュニティも強い。わからないことがあれば教えてくれるし、手が回りきらない時には作業を手伝ってくれることもあります。加えて市役所や農地銀行の協力もあるので、自分の場合はすぐに農業に着手できました。農業を始めるにはとてもよい環境が整っています。」と話してくれました。

自分の時間は自分のがんばり次第、季節や気候と生きる「農業のいいところは会社と違って時間を拘束されないためその日の仕事が終われば帰れるところ。自分で時間を有効活用できるので有意義な日々を送っています。ただし天気や温度、気候などに左右されるので仕事内容は毎日同じではありません。そこが農業のメリットでもあり、デメリットでもあります。また、農作業は何もかも自分のがんばり次第。手をかけた分だけ、またさぼった分だけその年の収穫に反映されるので、お金を稼いでいるという実感をより強く得られます。」と話してくれた大村さん。会社勤めから急に農業へと仕事が変わったものの、農業自体やそれに伴う生活の変化にはあまり苦痛を感じていないようでした。それどころかその表情からは笑顔が絶えず、やりがいと達成感を抱きぶどうに向かい合っていました。「自分のブドウづくりの技術は両親に比べるとまだまだ。より一層腕を磨きたい。」と今後への意欲も見せてくれました。



—
♥
甲州ぶどう

矢野貴士さん 農業

甲州市勝沼町在住

移住前地域 福岡県（熊本県出身）

「今年でぶどうの収穫3年目を迎えました。」と笑顔で語ってくれた矢野貴士さん。勝沼へ移住する前、福岡県内のホテル（レストラン）に勤務していた際に日本の食文化に触れ、ワインに興味を持つようになりました。ワインの原料となる醸造用ぶどうで最も古い歴史があり、地場品種の“甲州種”発祥の地でぶどうを作りたいと思い勝沼への移住を決意したそうです。「思い立ったら即行動！」そんな性格の矢野さんは、わずか3か月後にはここ勝沼の地へ移住していました。

Made in 勝沼が織りなすストーリー

農業に付き物の天候不順に加え、年1回の収穫しかできないぶどうの特性に矢野さんは苦労しているようです。「ホテルマンだったらどんな天候でも収入があったんです

けどね（笑）。」と矢野さん。しかし、苦労が多い分、雇われていた頃には味わったことのない充実感があると言います。「手をかけたらかけた分だけ良いことも、悪いことも返ってきます。それがやりがいに通じているのだと思います。」

原料のぶどうが最終的に行き着く先のレストランで働いていた矢野さんであるからこそ、美味しいワインを作るための醸造用ぶどうの栽培にこだわりを持っています。「勝沼で作られた地場品種のぶどうを、その土地で暮らす人間が仕込みワインにするというストーリーはここできかないことです。その工程を経てできたワインだからこそ価値があり、誇りを感じています。」と矢野さんは語ります。矢野さんが作る今年のぶどうはどんなワインになるのでしょうか。



野草を用いて、町おこし。

鶴岡舞子さん

「摘み草のお店 つちころび」のオーナー

甲州市塩山在住

移居前地域 東京都

鶴岡さんは、平成23年7月から3年間、農業に携わりたい気持ちと、地域資源として野草が活用されていないことを知って、何か行動を起こそうと思い、「甲州市地域おこし協力隊」に参加しました。柿づくり、農・移住者コミュニティづくり、地域のお祭りなど甲州市を活性化させるための活動を行ってきました。野草の利用と活用方法を多くの人に知ってもらうため、独学で勉強して、野草の知識を身につけました。現在は、甲州市内に定住して、自分のお店を開いて野草文化の普及活動を行っています。

地域の人々との交流

甲州市に来て、協力隊の活動を通して、地域のお年寄りや子どもと深く交流することができ、たくさんの知り合

いを作ることができたとのことで、今でも、みんなで集まって、お互いに日々の生活のことや将来について語っているそうです。山梨に来て初めて東京ではあまりないおすそわけや夜ご飯を一緒に食べることを経験し、山梨の習慣である「無尽」にも参加したそうです。

野草についてもっと知って欲しい

現在、野草を専門とする「摘み草のお店 つちころび」を創業し、野草スクール（学びの場）を開催しています。野草茶やハーブソルト（はこべ、ゆずなど）、ねこじゃらしのふりかけなど野草を活用したオリジナル商品も販売しています。甲州市にはたくさんの利用可能な資源があるため、もっと活用していくべきであると鶴岡さんは話しています。その中でも、野草について知っている人はとても少ないので、多くの人がつちころびを訪れるようになって、その方々に野草のことを伝えていけたらいいと話しています。

先輩甲州びとに聞いてみました。



今回私たちが取材させて頂いた『先輩甲州びと』のお話を聞いて感じた事は、まさに「住めば都」、この一言です。住み慣れた土地を離れた、見知らぬ土地に移住したりすることは非常に大きな決断であり、不安や躊躇があるのも当然の事。ですが取材をさせていただいた皆さんは甲州市を愛し、親しみ…今では地元民さながらの「甲州びと」でした。そんな皆さんの移住目的はバラバラで、生活も甲州市への想いも違っていました。しかし、甲州市の環境が皆さんそれぞれの生活に適していて充実している、ということは誰にも共通して言えることだと思います。「先輩甲州びと」の声は甲州市の魅力を多くの人に伝え、さらに甲州市を発展させる“魔法の言葉”のように感じました。

「先輩甲州びと」それぞれのかたちで甲州市での暮らしをしています。その様々なかたちから甲州市の魅力を感じていただけたら取材した私たちもうれしいです。

日本でも有数の農村風景が
甲州市にはある。



総面積の約8割を森林が占める甲州市は、中里介山の長編小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩をはじめ、大蔵高丸など山梨百名山などの山々を有しており、それぞれの頂上から望む富士山や南アルプスは絶景と好評で、年間を通じて多くの登山客が訪れています。

また、ツツジの群生地である三窪高原や、春から秋にかけて多彩な花が咲き誇る湯の沢峠、四季折々に表情を楽しめる日川溪谷「竜門峡」など、豊かな自然に囲まれています。

さらに、ブドウやモモなどの果樹園が里山に広がる独特の景観は、個性豊かな自然景観として身近な生活にとけこんでおり、誰からも愛される農村風景となっています。



しぜん
自然。

あま〜くて、おいし〜い。
「フルーツ王国・甲州市」



「フルーツ王国やまなし」の代表地である甲州市は、イチゴ、サクランボ、モモ、スモモ、ブドウ、カキなどの果樹栽培を中心とした農業が基幹産業であり、品質、生産量ともに世界に誇れる産地として知られ、季節に応じたフルーツ狩りが楽しめます。

また、日本ワイン発祥地・甲州市のワインの品質の高さは国内外で高く評価されており、その優しい香りと味わいは多くのワイン愛好家を魅了しています。

市内には150ヶ所を超える観光農園や、約40ヶ所のワイナリーがあり、様々な味覚を楽しみに、毎年多くの観光客が訪れています。





甲州市には「地域ぐるみで
支え合う心」が暮らしのなか
に息づいています。
子育て中のお母さんやお父
さんには、充実した子育て支
援サービス。高齢の皆さんに
は、健康で快適に暮らす生活
支援。若者の仲間が楽しく交
流できる環境づくりなど、誰
もが満足できる「安心」があ
ります。

「甲州市で子どもを産み、育
てる」「甲州市に住んで良かった」
。。。そんな大きな笑顔
があふれ、活力に満ちた「暮
らし」が甲州市にはあります。

れきし
ぶんか
歴史文化。

甲州市には、甲斐の国を治
めた武田家ゆかりの神社仏閣
が多数存在しています。

武田家代々の家督の証とさ
れる国宝「小桜韋威鎧 兜
大袖付」を有する菅田天神社
信玄公の菩提寺である恵林寺
勝頼公の菩提寺である景德院
日本最古の「日の丸の御旗」
などを有する雲峰寺など、す
べてが貴重な歴史文化財であ
り、その一つひとつに武田家
と甲州市のゆかり深さを感じ
させます。

また、国内のワイン醸造発
祥にまつわる産業遺産など近
代産業遺産も数多く点在し、
甲州街道や鎌倉への歴史的な
街道も残っている甲州市は、
歴史的な文化財をはじめ、い
にしえの文化と先人たちの足
跡が今に残る歴史に彩られた
まちであります。



田舎暮らしをしてみたいけれど、わからないこともたくさん。こんなときどうしたらいい？そんな声にお答えします。

Q 子育て中です。どんなサービスがありますか？

A

甲州市には、安心して、妊娠・出産・子育てができる充実した母子保健・子育て支援の体制が整っています。主な子育て支援は次のとおりです。

- ・妊産婦新生児訪問事業（妊娠中2回、新生児期に2回、保健師と助産師の訪問が受けられます。）
- ・ママの安心テレホン（妊婦さんや産後ママの不安解消のため、休日夜間も含めて電話相談ができます。）
- ・マタニティークラス（妊娠や出産についての詳しい知識やお産のためのコツ、育児情報や実技指導などを実施しています。）
- ・産前産後ママのほっとスペース（妊婦さんや産後のママが赤ちゃんと一緒に気軽に立ち寄れて、助産師や保健師の専門相談も受けられるスペースを開放しています。）
- ・2～3ヶ月児訪問事業（2ヶ月から3ヶ月児を対象に保健師が家庭を訪問します。）
- ・乳幼児健診（3ヶ月、7ヶ月、1歳6ヶ月、3歳、5歳児を対象とした健診や2歳児親子歯科検診を実施します。）
- ・育児学級（育児の知識や制度の学習、育児相談、仲間づくりの場を提供しています。）

Q 田舎暮らしを始める前に何をしたらいいですか？

A

まずは、自分がどんな生活がしたいのかイメージしてみてください。（何を目的に田舎暮らしを考えているのか、仕事や移動手段はどうするのか等）自分のライフスタイルがこの地域で実現できるかどうか検討してください。



Q 地域になじむにはどうしたらいいですか？

A

風習や文化などが都会での生活と異なって戸惑うこともあると思いますが、引っ越してきた自分が新参者という意識を持ちつつも、地域の住民に対して壁を作らずに接していくことが大切です。また、地域の行事に参加することで、住民と接する機会が増えてつながりが強まります。

Q どのような気候ですか？

A

夏は暑く、冬は寒いなど盆地特有の寒暖の差が大きいです。このため、ぶどうなど果樹栽培が盛んな地域です。年間の降水量は少ないですが、夏から秋にかけて集中豪雨が発生することがあります。

Q 交通機関はどのようなものがありますか？マイカーは必要ですか？

A

市民バスを運行していますが、本数に限りがあります。事前に電話予約して利用するデマンドバス（塩山地域のみ運行）もありますが、マイカーがあれば移動の融通はしやすくなります。

Q 買い物ができる場所はどれくらいありますか？

A

各地域にスーパーマーケットやコンビニが点在しています。服や電化製品等については、地域によって店までやや長距離の移動を要することがあります。

Q 農業を始めたいが、どうすればよいですか？

A

甲州市では就農定着支援制度推進事業を実施しています。優れた技術を持つ農業者（アグリマスター）の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得するのを支援するもので、毎年研修生を募集しています。その他、農地の貸借や就農に関することは、市役所もしくはJAフルーツ山梨（農協）にお問い合わせください。

Q 住宅や土地を探す方法はありますか？

A

不動産会社にご相談ください。その他、甲州市では空き家バンクを実施していますので、空き家バンクに登録されている物件にご希望のものがあれば、宅建協会が仲介の上、交渉することもできます。

甲州市の支援制度

移住を考えたとき、思いつくのが「自治体の支援サービス」。住宅の購入やリフォームはもとより、子育て、福祉など、甲州市では定住・移住に関連する様々な支援制度があります。甲州市に移住を考える方は、ぜひご覧ください。

child rearing

子育て

産前産後

- 妊産婦・新生児訪問指導
- ママのあんしんテレフォン
- 妊婦健診の助成
- マタニティークラス
- 産前・産後ママのほっとスペース
- ファミリーサポート事業

助成制度

- 児童手当
- 子ども医療費助成制度



live

住む

甲州市住宅リフォーム

市民の居住環境の向上を図るとともに、本市の経済の活性化に役立てるため、市内の施工業者により行う住宅リフォーム工事費の一部を補助します。

対象住宅の増築、一部改築、改修、修繕、模様替え、設備工事等などの対象工事費が20万円以上（消費税含む）のリフォームで、市内の事業者によりリフォームを行う工事。

- ・リフォーム補助 最高限度額10万円（工事費1割）
- ・木造住宅耐震リフォーム補助 最高限度額20万円（工事費の1割）
- ・空き家住宅リフォーム補助 最高限度額20万円（工事費の2割）

※補助金額は、千円未満の端数は切り捨てとなります。

work

働く

就農定着支援制度（アグリマスター制度）

市では、就農を希望する方への農業技術の習得等を支援するため、優れた技術を持つ農業者（アグリマスター）の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得する長期研修の支援制度を実施しています。

■支援内容

- 1) 栽培技術の習得研修
- 2) 農業経営管理手法の習得研修
- 3) 農作物の流通・販売に関する研修
- 4) その他研修生の自立に必要と認められる研修など

※研修期間中の研修手当として、1ヶ月あたり5万円を支給します。

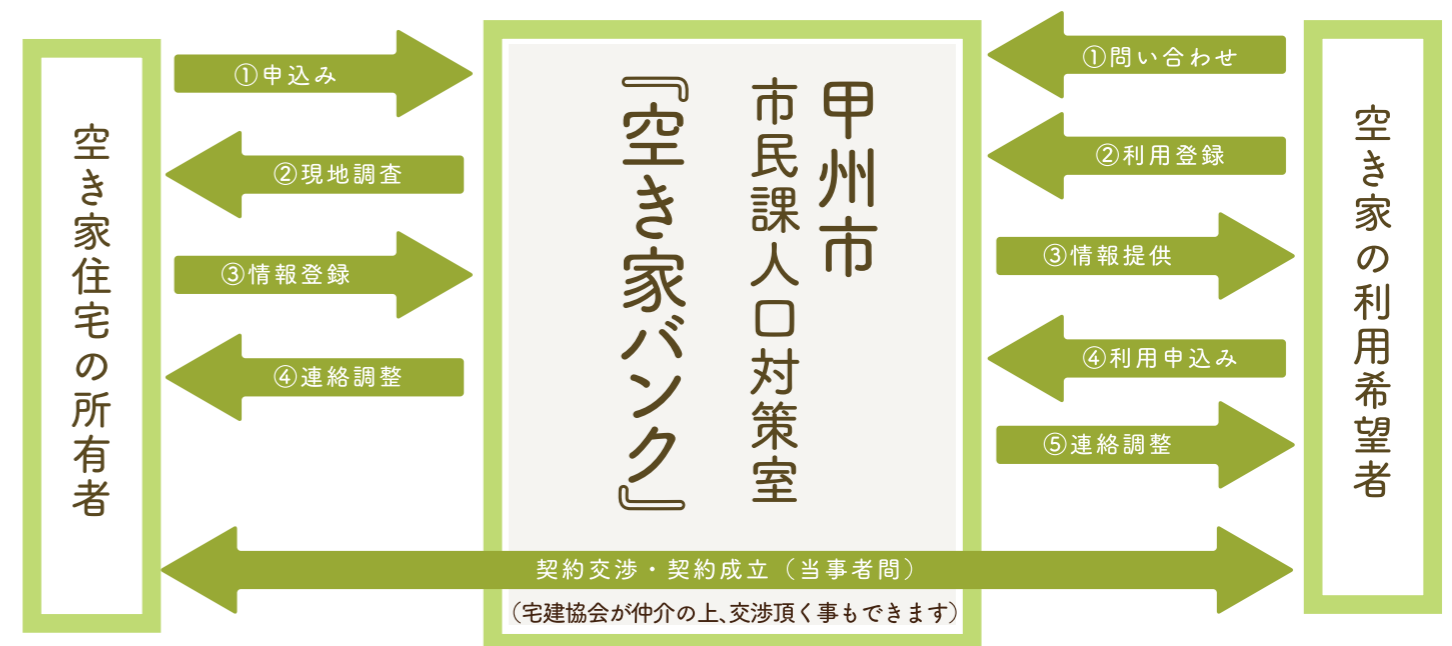
空き店舗

市では、商店街の活性化と活力あるまちづくりのため空き店舗を利用した新規事業者に補助金を交付します。なお、事前に認定を受ける必要があります。

空き家バンク制度

市では、賃貸もしくは売却を希望する空き家の所有者（建物の有効活用）と、田舎暮らしを希望する皆さんが出会えるよう、建物の有効活用と定住促進を目的に空き家の情報提供と移住希望者への情報発信をする、空き家バンク制度を設けています。

空き家バンクの制度概要図



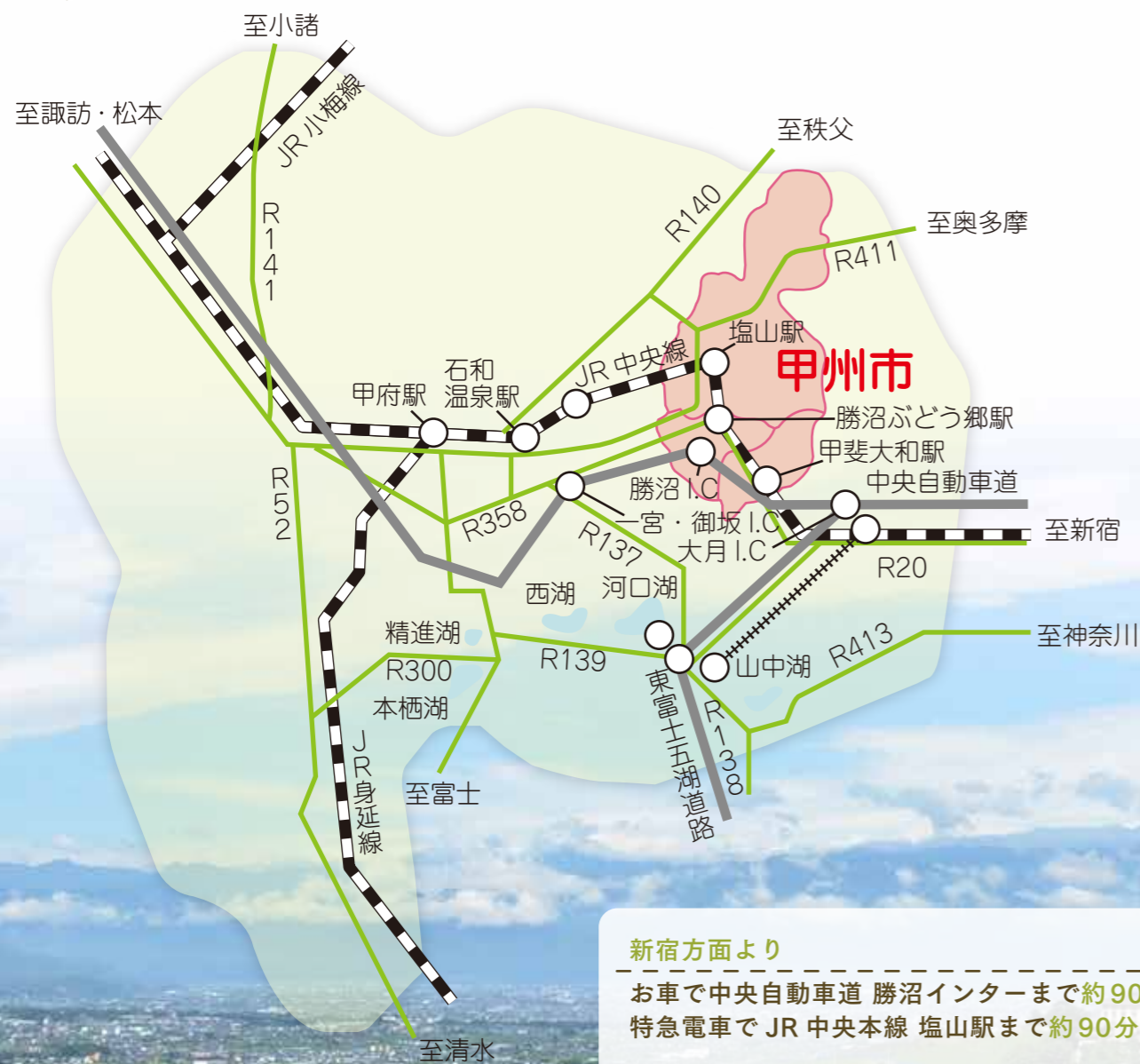
※空き家バンクについてのお問い合わせ先
 甲州市役所 市民課人口対策室
 電話: 0553-32-5037 メール: shimin@city.koshu.lg.jp

※甲州市ホームページ内
 特設ページ「空き家バンク」もご覧ください。
 アドレス（甲州市HP） <http://www.city.koshu.yamanashi.jp/>

都心からすぐの田舎暮らし
甲州
らいふ

都心から90分。

四季で様々な表情をもつ山梨県甲州市へ。



新宿方面より
お車で中央自動車道 勝沼インターまで約90分
特急電車でJR中央本線 塩山駅まで約90分

御殿場方面より
お車で中央自動車道 勝沼インターまで約90分

松本方面より
お車で中央自動車道 勝沼インターまで約90分
特急電車でJR中央本線 塩山駅まで約90分

提案
もと

2013 人口対策第2ワーキンググループ

私たちは、甲州市の人口対策に向けて発足したプロジェクトチーム（第2班）として、「甲州市のことを全国の皆さんに伝えたい」「自分たちが読んで楽しいもの」をテーマに、地域密着型無料情報誌発行事業を提案しました。この度、取材や編集など山梨県立大学の皆さんの協力により、私たちの提案が実現しました。移住を希望されている方の参考になればと思っていますので、ぜひ、ご覧ください。



【発行元】
山梨県甲州市役所 政策秘書課 秘書・広聴広報担当
〒404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1
TEL 0553-32-2111(代)